

事業案部活で磨く

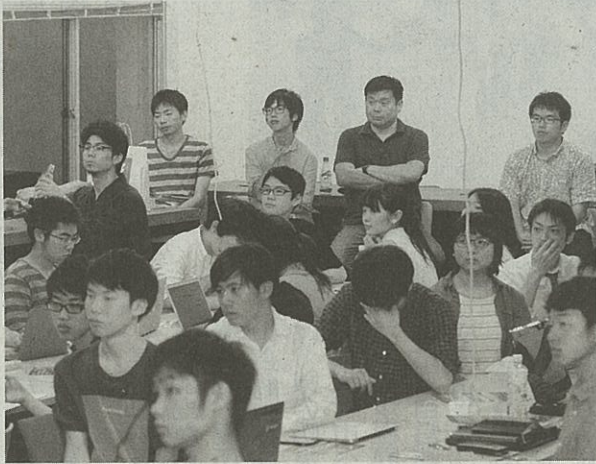
■100人が「合宿」

「遺伝子検査をして、その人に最も合った化粧品を作るサービスを考えました」

「犬を飼えない人に犬を貸し出すマッチングサイトを作りたい」

8月上旬、福岡県田川市内の多目的施設。100人以上の九州大の学生が、45人のグループごとに考えたビジネスプランを発表していた。辛口の審査員から「今の内容なら投資してもいい」という感想も。ベンチャー企業創出をめざす同大の部活動「起業部」の夏合宿だ。

同部は6月に発足。顧問には、同大学術研究・産学官連携本部の熊野正樹准教授(44)が就いた。自らも起業経験があり、2016年

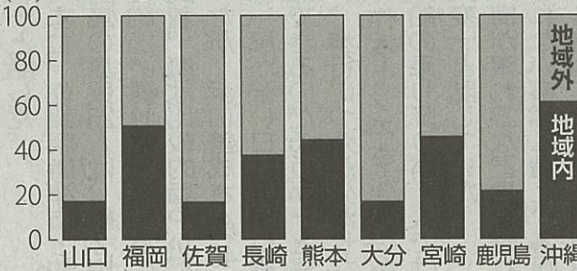


に現職に就くまでは崇城大で起業家教育に取り組んできたエキスパートだ。入部の条件は学生時代に起業する意思があること。一般企業に就職するつもり

講師から起業に関するアドバイスを聞く九大起業部の学生たち。部活動だが、まなざしは真剣だ(後方右から2人目は熊野准教授、福岡市中央区で)＝浦上太介撮影

「環境作り」九大など設立

◆大学のキャンパス所在地別に見た就職先



「大学生の地域間移動に関するレポート2017」(リクルートキャリア)から

した社長や弁護士など約30人が、経営戦略や起業にかかわる法務などをアドバイスする。SMBBC日興証券も資金面で支援する。部の目標は1年間に平均5社、10年で50社の学生ベ

ンチャーを創出することだ。うち5社は上場を目指す。そのために、ビジネスプランを練り、国内外のビジネスコンテストに出場しながら、準備を進める。

入部した同大医学部4年の山本真輝さん(23)は「僕が考えたビジネスモデルで、糖尿病に無関心な人の行動や意識を変えてみたい」と意気込む。

■「焼酎がす」で大臣賞

崇城大は14年に「起業部」を設立。熊野准教授が顧問となり、30人が集まった。今年3月の学生ビジネスコンテストでは、ビジネスプランが文部科学大臣賞を受賞した。使い道が肥料などに限られる焼酎のしぼりかすを使って、植物の成長促進などに応用が期待される

■交流の場を

リクルートキャリアの調査によると、九州・沖縄にある大学を17年に卒業した学生のうち、約61%は九州・沖縄で就職したが、約26%は首都圏を就職先に選んだ。この地域には、大企業

特殊な細菌の培養キットの開発・販売を考え出した。熊野准教授によると、起業したい学生は就業体験を目的に東京などのベンチャー企業に行き、そこで青田買わされているのが実態だという。それだけに、「活動を続けることで、地元に残る人材を育てていきたい」と力を込める。佐賀大では15年にサークル活動として「Booths(エントランス)」が発足した。ビジネスプランの発表会やセミナーなどを開催。代表を務める同大経済学部3年の山口拓馬さん(22)は「学生の視点で、起業する環境が乏しい現状を変えたい」と語る。

英知を集め、異分野の発想や技術が混じり合う「場」。そこで生じた「化学反応」は社会の課題を解決に導き、地域に活力をもたらす原動力になるはずだ。(第3部おわり。編集委員 小川祐二朗、社会部 上村広道が担当しました)

*題字は書家の岩田海道さん